

カツオ 中西部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*

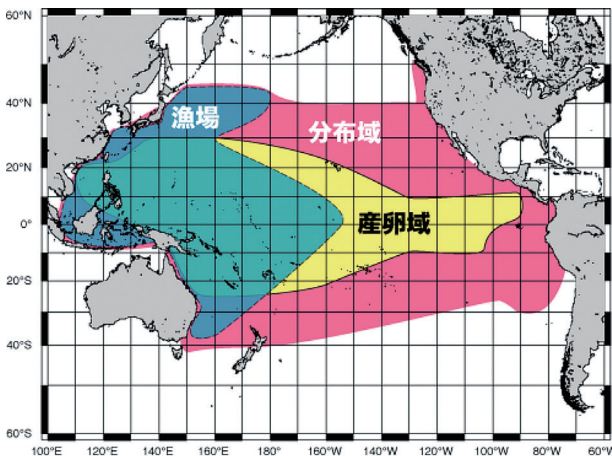


管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

最近の動き

中西部太平洋における本種の最新の資源評価は SPC の専門家グループにより 2014 年に行われ、現在の漁獲は過剰漁獲の状態ではなく、資源も乱獲状態にないとされた。この結果は同年 8 月の WCPFC 科学委員会に報告され、漁獲死亡が増加傾向で、かつ資源量は減少傾向が続いていることが認識された。また、赤道域における高い漁獲が資源の分布水域を減少させ、その結果、高緯度水域への回遊が減少している懸念が示された。これを踏まえ、科学委員会は、①漁獲死亡を現状から増大させないよう、まき網漁業の管理規制強化等の措置を WCPFC が実施すること、②赤道域の大量漁獲の影響による分布域縮小の懸念を WCPFC は認識し、当該研究を継承すること、③資源評価モデルを改良し、条約区域辺縁部の漁業データを含めたものとする、を勧告した。同年 12 月の WCPFC 年次会合においては、前年に合意されたメバチ・キハダ・カツオ保存管理措置の見直しが議論されたが継続審議となった。



太平洋におけるカツオの分布域、産卵域及び漁場

生物学的特性

- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1.5 歳
- 産卵場：表面水温 24℃以上の海域
- 索餌場：表面水温 15℃以上の海域
- 食性：動物プランクトン、魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など

利用・用途

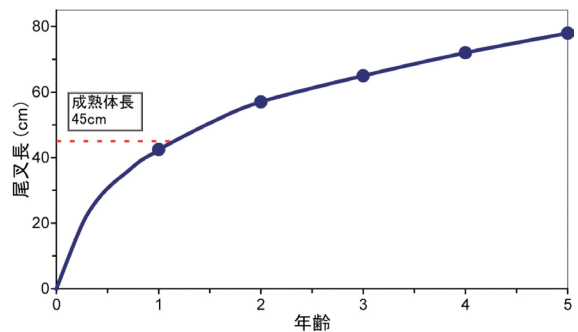
缶詰や節原料、刺身・たたきによる生食

漁業の特徴

2013 年の中西部太平洋におけるカツオの漁獲量は 181 万トンの過去最高の漁獲であった。漁法別漁獲量（暫定値）は、まき網が 148 万トンで 82%、竿釣りが 16 万トンで約 9%、その他の漁業が 17 万トンで約 7% である。まき網については日本、韓国、台湾及び米国の遠洋漁業国が近年の漁獲量の 5～6 割を占め、他はインドネシア、パプアニューギニア、フィリピンが多い。竿釣りは、2005 年頃まで日本が約 6 割を占めていたが、次第に減少し、2006 年以降はインドネシアが最も漁獲量が多くなり、日本が占める割合は近年 4～5 割ほどになっている。国別漁獲量は、2009 年を除き 2010 年までは日本が最大であったが、2011 年には 24 万トンに減少し、以降はインドネシアの漁獲量が最大となっている。韓国、フィリピン、台湾、米国は近年それぞれ 15～23 万トンほど漁獲している。

漁業資源の動向

漁獲量は 1960 年前後には 10～17 万トン、1970 年には 20 万トンを超え、1970 年代後半には 30 万トンを超える水準を超えた。この間の漁獲の伸びは主に竿釣りが中心であったが、漁場の拡大に伴う活餌保持の問題と燃油高騰等の経済的要因から、遠洋竿釣り漁船数は減少し、漁獲量の伸びは停滞した。1980 年代には各国のまき網船による熱帯水域漁場の開発も始まり漁獲量の急増期に入った。中西部太平洋における漁獲量は 1970 年代まで 40 万トン台であったが、1990 年代には 100 万トン前後に増大、さらに 2009 年には 180 万トン近くに達したが、2011 年にかけて減少した後、再び増加に転じ、2013 年は 181 万トンと過去最高を記録した。



中西部太平洋のカツオの成長パターン

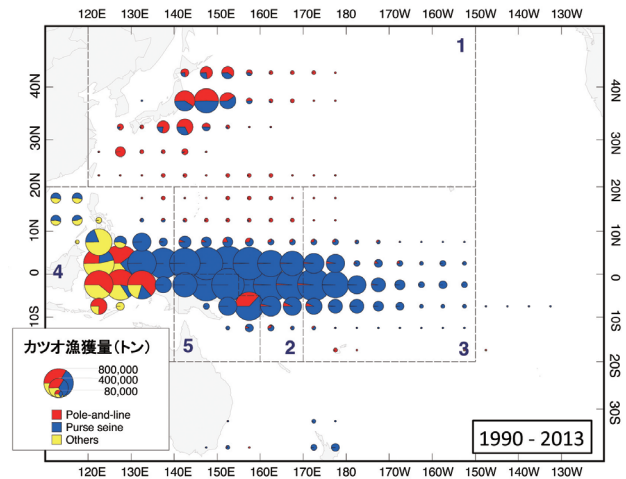
資源状態

2014 年の資源評価においては、現在（2008～2011 年）の漁獲率は MSY レベルを下回っており過剰漁獲にはなく ($F_{cur}/F_{MSY}=0.62$)、資源量も MSY レベルを上回っていることから乱獲状態にはない ($SB_{cur}/SB_{MSY}=1.94$) とされた。他方、同年の WCPFC 科学委員会においては、漁獲死亡が増加傾向で、かつ資源量は減少傾向が続いていることが認識された。また、赤道域における高い漁獲が資源の分布水域を減少させ、その結果、高緯度水域への回遊が減少している懸念が示された。

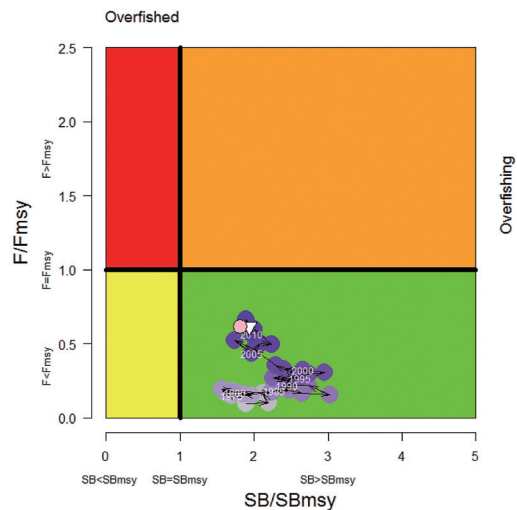
管理方策

2014 年の WCPFC 科学委員会は、①漁獲死亡を現状から増大させないよう、まき網漁業の管理規制強化等の措置を WCPFC が実施すること、②赤道域の大量漁獲の影響による分布域縮小の懸念を WCPFC は認識し、当該研究を継承すること、③資源評価モデルを改良し、条約区域辺縁部の漁業データを含めたものとする、を勧告した。

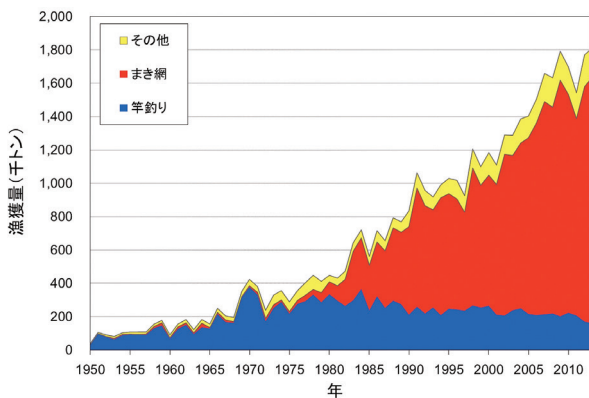
WCPFC は、メバチ・キハダ・カツオの保存管理措置として、熱帯水域のまき網漁業に対し、① FAD 操業の段階的な規制強化（2014～2016 年）、②公海における FAD 操業の原則禁止（2017 年より）、③島嶼国以外のメンバーが保有する隻数の凍結、を導入している（FAD 操業規制はメバチ幼魚死亡率削減を目的とするが、本種にも影響を与えている）。現在の保存管理措置は 2013 年の WCPFC 第 10 回年次会合で合意された。2014 年の年次会合においては、FAD 操業の更なる規制強化を中心とした見直し議論されたが継続審議となった。



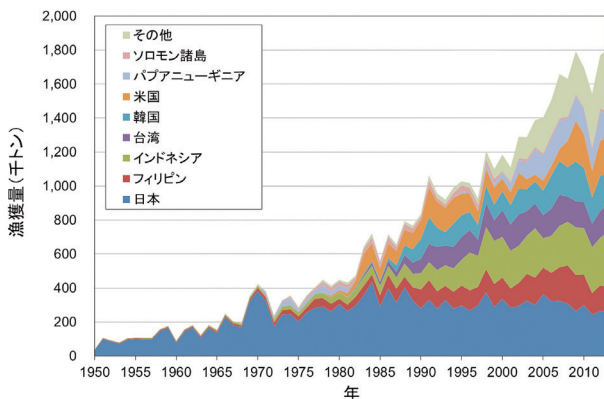
中西部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲分布 (1990～2013 年)
赤：竿釣り、青：まき網、黄：その他



MSY レベルを基準とした漁獲係数の相対値 (F/F_{MSY}) と産卵親魚量の相対値 (SB/SB_{MSY}) の経年変化
縦軸及び横軸の 1.0 は MSY レベルを示す。



中西部太平洋におけるカツオの主要漁法別漁獲量の経年変化



中西部太平洋におけるカツオの国別漁獲量年変化

カツオ (中西部太平洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	高位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	154.3～181.0 万トン 平均：172.2 万トン (2009～2013 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	24.3～29.9 万トン 平均：26.6 万トン (2009～2013 年)
最新の資源評価年	2014 年
次回の資源評価年	2017 年